10　富める者も貧しい者も公平に、118歳を全うした医聖

徳　本　翁

（1513？～1630？／大浜）

1　大浜に生まれ、信濃国甲斐にわたる

徳本翁は、永正 10 年（1513）頃大浜に生まれた。〔甲斐国谷村（現 山梨県）に生まれたという異説もある〕少年の頃、陸奥国で仏門に入り、鹿島（現 茨城県）〔出羽・現 山形・秋田両県の大部分という異説もある〕に行き、最初は僧残夢を師と仰ぎ修験道における神仙吐納（呼吸のこと）を学んだ。

後に月湖道人（中国からの帰化人）や田代三喜、玉鼎（ぎょくてい）らより李朱医学（当時の明からもたらされた漢方医学）を修め、甲斐（現 山梨県）に移り住んだ。

2　武田信虎、信玄の侍医になる

当時、甲斐の国主であった戦国大名武田信虎、その子武田信玄の侍医となった。諸国巡遊の中、甲斐国に最も長く滞留したことから「甲斐徳本（かいのとくほん）」とも呼ばれた。

武田家は、息子の信玄と父信虎が不仲になったため、甲斐にいることが嫌になり、天文 10 年（1541）に信州諏訪の東堀村に移り住んだ。そして御子柴（みこしば）家に寄寓し、その娘と結婚した。

3　独自の医説、独自の処世訓をもって

当時盛んな後世家医方を学んだが、これに飽きたらず独自の医説をたて、中国後漢の張仲景（ちょうちゅうけい）の医説によるべきことを主張した。疾病は鬱滞（うったい）に起因し、多くは風寒によって発病すると説き、いわゆる汗・吐く・下・和の治療法を唱え、作用の激しい薬を用いて病気を攻撃することを主旨とした。張仲景の「傷寒論」のなかの法則は、このとき初めて日本で行われたと言える。独自の処世訓をもち、医家の風俗矯正に熱心であった。

4　薬袋を首にかけ、諸国を巡った

武田家滅亡後は、戦火を逃れて東海・関東諸国を巡り、貧しい人々に無料で薬を与えたり、安価で診療を行ったとされる。伝承によれば、徳本翁は首から「一服 18 文（一説によれば 16 文）」と書いた薬袋を提げ、青牛の背に横になって諸国を巡った。どんな治療を行っても 18 文以上は、取らなかった。また、貧者には無料で診療を行った。人々は、徳本翁のことを「18 文先生」と呼んでいた。

京都の名医曲直瀬（まなせ）道三らと往来した。そして、天正 10 年（1582）、70 歳になろうとしたとき、甲斐に帰り、甲府の横近習町（よこきんじゅまち）に住んだ。後に上一条町に移った。

5　植物学にも通じ、甲州葡萄（ぶどう）の基礎をつくった

徳本翁は山野を巡り、薬草を採取しながら研究したため、本草学（植物学）にも精通していた。慶長 20 年（元和元年・1615）、102 歳頃にぶどうの接ぎ木、挿し木やぶどうの棚架け法などを発明して村人に教えた。そのことが、今日の甲州葡萄の

隆盛につながったと言われている。

6　将軍秀忠の大病を治す

寛永 2 年（1625）、前将軍（二代将軍）徳川秀忠は大病にかかった。多くの名医がいろいろな薬をすすめても効果がなかった。医聖徳本を推す人があり、秀忠の前に徳本翁が呼ばれた。そして徳本の処方した薬で、秀忠は見違えるように全快した。そのときも、薬代は「一服 18 文」の計算で受け取り立ち去ったと言われている。そのことによって、ますますその名を挙げた。

7　118歳の長寿を全うする

晩年は現在の岡谷市に居住し、寛永 7 年（1630）、数え年で 118 歳の長寿の末死去したと言われている。信州東堀村（現 長野県岡谷市）に墓と記念碑がある。その人生は謎と伝説に包まれている。

著書に『梅花無尽蔵』『徳本翁十九方』『医之弁』『知足斎医鈔』などがある。

8　イボ神様、永田徳本

徳本翁の墓は、今の岡谷市長地（おさち）柴宮・尼堂（あまんどう）浄苑（東堀の尼堂墓地・東堀八幡宮柴宮の裏）にある。そして、その墓は、「徳本の籃塔（らんとう・かごのような塔）」と呼ばれ、その籃塔の中には沢山の石が詰まっている。今でもその石を借りていき、自分のイボをこするとイボが治るというオマジナイ的なしきたりがある。そして、イボが治ったお礼は、石の倍返しとのことだそうである。

9　名前のこと

碧南市音羽町の宝珠寺裏に徳本稲荷があり、病気平癒を祈願する人々が今でもお参りに来ている。その稲荷社の横に、徳本翁の記念碑が建てられている。

徳本翁は、大浜羽城の長田（おさだ）重元の弟で、永井直勝（江戸城の書院番頭、後に七万二千石の古河城主）の叔父に当たると言われている。ただ、徳本の出生や系図については諸説があり、長田重元の甥、重元の孫、あるいは長田の分家の子であるなどとも言われ、「長田徳本」と書かれてある書物が多い。また、歴史の悲話により長田の長をナガと読むことから「永田徳本」とも言われるようになった。

１０　「株式会社トクホン」の社名の由来

日本の製薬会社、「株式会社トクホン」（明治 34 年に「鈴木日本堂」として創業し、平成元年に現社名「トクホン」に変更した）は、「医聖」徳本翁の名前から付けられた社名である。また、「トクホン（プラスター）」という同社の消炎鎮痛プラスターの商品名でもある。

同社では、徳本翁に尊敬と感謝の念を込めて「徳本先生」と呼んでいる。

◆もっと知りたいなら

・『徳本翁』（『碧南市史料』第 14 輯・碧南市史編纂会 1957 年）
・『徳本を訪ねて』（『漢方の臨床』43 巻 5 号・大友一夫著）
・『徳本翁』（平 22 季刊誌『みどり』 浅井久夫）

※「永田徳本」のネット情報有り